

グローバル・サステイナブル・テクノロジー（GST）研究会

第8回超臨界流体技術グループミーティング顛末記

平成21年6月5日午後、静岡大学イノベーション共同研究センター（静岡県浜松市）において、静岡大学工学部プロジェクト「グローバル・サステイナブル・テクノロジー研究会」第8回超臨界流体技術グループミーティングが開催されました。今回の参加者は企業の方を中心に32名と、多くの方にご参加いただきました。まず始めにGST研究会代表の佐古猛先生より初めの挨拶をいただいた後、信州大学工学部の佐藤伸明先生より、「水熱反応を前処理に用いたキノコ栽培使用済み培地の利活用」と題して、使用済み培地の亜臨界水分解による可溶性糖質の回収技術や連続式水熱反応装置の概要について講演していただきました。次に本学工学部の昆野昭則先生より、「注目される色素増感太陽電池－現状と課題－」と題して、湿式型色素増感太陽電池の持つ問題点をクリアできると期待されている固体型色素増感太陽電池に関する研究開発について講演していただきました。そして本学工学部の藤波達雄先生により、「リチウム電池の開発の現状と課題および将来展望」と題して、蓄電池とエコカーに関する説明と車載用蓄電池の現状と課題、将来の蓄電池と車社会について講演していただきました。

また、今回の見学は、イノベーション共同研究センター内に設置してある亜臨界水によるバイオマス廃棄物の粉末燃料化プラントと亜臨界水によるペーパーラッジ（製紙汚泥）の連続処理装置、高柳記念未来技術創造館の3箇所でした。

今回の3つの講演は、再生可能なバイオマスの利活用と21世紀を支える新エネルギーに関するものです。バイオマスの利活用については連続式高圧反応装置の構造や取扱いなどに関して、また新エネルギーについては当研究会で初めて話を聞くテーマであり、現在注目されている技術ということもあって、熱心に意見交換が行われました。

今回の超臨界流体技術グループミーティングは来年2月頃に見学会＋講演会を行う予定ですので、皆様の積極的な参加とご協力をお願いいたします。

記・岡島いづみ（静岡大学）



信州大学 佐藤伸明先生による講演。水熱反応を前処理に用いたキノコ栽培使用済み培地の利活用についてお話をいただきました。



物質工学科 昆野昭則先生による講演。固体型色素増感太陽電池の現状と課題についてお話していただきました。



物質工学科 藤波達雄先生による講演。リチウム電池の開発の現状と課題および将来展望についてお話していただきました。

見学会の一コマ。高柳記念未来技術創造館の見学です。

